

17. 「null²」&「いのち動的平衡館」 そして「文楽」



大阪万博研修旅行で、圧倒的に記憶に残った建築物
世界の日本の、数多の建築物のなかで、日本を代表する。クリエイター8人が「いのち」をテーマにプロデュースしたシグナチャーゾーン。その中でも、一番南に向かい合い配置された「null²」と「いのち動的平衡館」が私のお勧めで特に心に残る。

「null²」は、圧倒的に個性的な外観を持ち、曲線を描くミラ膜がまるで心臓の鼓動のようにふるまい、台風のようなおどろおどろしい眼が、色鮮やかに形態を歪めて、見る者を虜にする。



「いのち動的平衡館」は、建設の内幕が披露されている動画に紹介される通り、最終形が想像しにくい過程を経て、構造工程の最後に、突然すべての構造部材が整然と役割を果たし、その姿を地上に現した建築物であるという。最初の構造原型の発想、そして、現実完成させてしまうコンピュータを駆使した技術力。関係者の苦勞に思いを馳せる。

古典芸能 文楽

3日目に、国立文楽劇場を見学に行き、ひよんな事から文楽を鑑賞することになった。生まれて初めて生で見る文楽は、なんとも言えない味があり、引き込まれずにいられない。

太夫・三味線・人形遣いの生み出す、音・人形の動きは一生をかけて修行する者の凄みを感じさせる。



多分、二度と見られない国内万博で、命短く輝く建物達を、足が棒になるまで見学出来た幸せに感謝します。

中藤